

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2025 年 1 月 24 日（第 1 版）

承認番号	24162
課題名	ハグユーバックを使用した下部消化管手術の術後シバリング発生に関するリスク因子の検討
研究期間	西暦 2025 年 2 月 12 日（実施許可日） ～ 2025 年 12 月 28 日
研究の対象	2024 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 までに下部消化管の手術を受けられた方（該当する方の中から、全身麻酔時に吸引式の体位固定具ハグユーバックを使用された方が本研究の解析対象となります）。
利用する試料・情報の種類	■診療情報（詳細：ペチジン使用の有無・中枢温（中央値・最大値・最小値）・末梢温（中央値・最大値・最小値）年齢・性別・BMI・麻酔方法・手術時間・出血量・尿量・輸液量・体位・術式・温風加温装置の使用の有無と使用方法・フルルビプロフェナキセチル・アセトアミノフェン・ノルアドレナリン等） ☐ 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） ☐ 血液 ☐ その他（ ）
利用予定日	実施許可日から 1 ヶ月後
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	当院では手術中腋窩等に体温計を挿入し、経時的に体温測定を行い、体温低下時に温風が出る加温装置を用いて体温管理を行っています。しかし術後にシバリングを起こす患者さんが散見されました。シバリングとは体温低下時に体温調整のために熱を上昇させる生理的反応のことです。 下部消化管の腹腔鏡下における手術では、ハグユーバックという吸引式の体位固定器具を使用する場合があります。ハグユーバックとは、内部に小さな弾性ビーズが入っており、空気を抜くことで弾性ビーズがかたまり、身体にフィットした状態で長時間同じ形状を保つことができる体位固定器具です。ハグユーバックは温熱療法機器を併用すると、材質が変形、変性する可能性があるとして添付文書に記載されており、加温装置はハグユーバックに直接接触しないよう上半身用のブランケットを使用するため、加温可能な範囲が胸部と両上肢に限局され、十分に加温できず低体温になるのではないかと考えられます。そのため、十分な体温管理を実践できているか評価し適切な体温管理が行えるように当院でのシバリングの発生状況について詳しく知る必要があると考えました。
研究の方法	全身麻酔下でハグユーバック使用した下部消化管手術でのシバリングの発生状況を電子カルテから調査します。また、全身麻酔下のハグユーバック使用した下部消化管手術の中でシバリングが発生していない患者さんと発生した患者さんを比較してシバリング発生の原因を調査します。

その他	
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先 研究責任者：看護師 松居果鈴 所属：〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 旭川医科大学病院 看護部 手術部ナースステーション 電話番号：0166-69-3501（直通）